

うまい!

岩船米づくり情報 No. 7

令和3年7月
岩船農業振興協議会
村上農業普及指導センター

高温に対応した出穂前の適切な追肥により
栄養凋落を回避して品質と収量を確保!

◇7月26日現在の生育状況【普及センター調査ほこしヒカリBL】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)		葉色 (SPAD)		予想出穂期
		本年	指標比	本年	指標差	
*山北/大 毎	5/ 9	86	109	28.0	- 4.5	8月4日
*朝日/川 端	5/11	91	115	29.1	- 3.4	8月2日
*村上/鑄物師	5/16	91	116	31.5	- 1.0	8月4日
神林/牛 屋	5/10	85	112	30.1	- 2.9	8月2日
荒川/名 割	5/14	92	115	32.6	- 0.8	8月9日
関川/下 関	5/11	85	108	31.0	- 3.0	8月7日
平均	5/11	88	112	30.3	- 2.8	8月4日

※平均は、6地点（旧市町村）の水稲作付面積に応じた加重平均。 *印は基肥一発体系

- 草丈：長い
- 葉色：淡い（基肥一発体系でも褪色が顕著）
- こしヒカリの出穂期は、**平年より4～5日程度早い見込み**

新潟地方気象台7月22日発表の北陸地方1か月予報によると、平年に比べ晴れの日が多く、**平均気温は高い確率が60%で、特に2週目（7/31～8/6）は気温がかなり高くなる**可能性があるとして予想されています。

こしヒカリでは、**出穂期及びその後の葉色低下により、高温登熟時の基部未熟粒の発生助長が懸念されます。**最新の気象予報と葉色の推移を踏まえた追肥対応や用水の供給状況に応じた水管理を適切に行いましょう。

1 コシヒカリの2回目穂肥は確実に

- 8月は高温が見込まれます。2回目穂肥は生育量が多くても確実に施用しましょう。**
- 分施の2回目穂肥は、倒伏に直接影響しない時期となる出穂10日前（葉耳間長±0cm）を確認してから施用しましょう。（詳しくは「岩船米づくり情報 No.6」参照）
- 基肥一発肥料の場合でも、出穂期の葉色がSPAD32～33を下回ると予想される場合は、出穂期10日前までに窒素成分で1.0kg/10aを追肥しましょう。

2 出穂前の葉色を確認して出穂直前の追肥を判断

- 梅雨明け後の高温で、**急激に葉色が低下しています。分施、基肥一発肥料とも必ず出穂直前の葉色を確認し、葉色が薄い場合は、さらに追肥を行いましょう。**

出穂直前追肥が必要なこしヒカリのめやす（判断時期：7月末～8月初め）

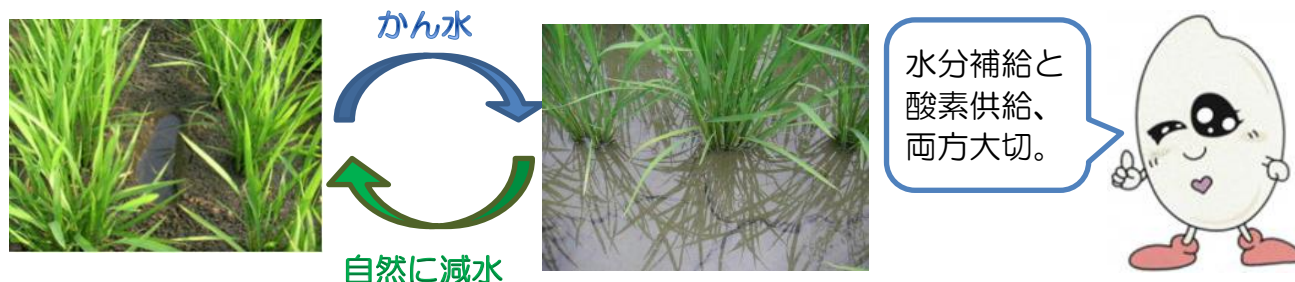
肥料の種類	出穂期3日前の葉色のめやす		施用時期	穂肥施用量
100%化学肥料 ～3割減化学肥料 体系	高地力ほ場	SPAD31以下 葉色板単葉4.0以下	出穂期 3日前 まで	チッソ成分 1.0kg/10a
	低地力ほ場	SPAD33以下 葉色板単葉4.5以下		

注) 簡易葉色板では、「適」よりもやや濃い程度でも追加穂肥が必要です。
なるべく速効性の化学肥料で追肥しましょう。

3 地域の用水供給状況に応じた水管理を ~出穂 25 日後まで「飽水管理」~

- 出穂 25 日後頃(収穫の 2 週間前)まで飽水管理を行い、根の活力維持を図り登熟を向上させましょう。
- 台風接近に伴うフェーン現象による強風、高温の被害発生が予想される場合は、予め湛水して稲体を保護しましょう。
- ただし、輪番給水地域では、通水日を確認して、効率的な水管理に努めましょう。
- 暗渠栓の開けっぱなしに注意願います。今後は水不足が心配されるので、必ず閉栓されていることを確認しましょう。

飽水管理ってどんな管理？ ☞ ほ場に 2~3 cm 水をためて足跡や溝に水がなくなったらかん水する管理です！



~用水は限りある資源です、「自分さえ良ければ」はダメ、地域全体で大切に使いましょう~

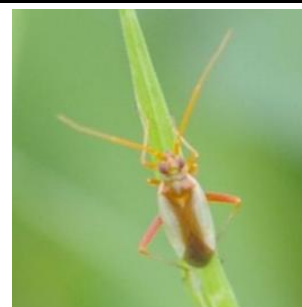
4 カメムシ類・穂いもち防除の徹底を！ ~美しい穂に仕上げましょう~

(1) カメムシ類の防除

- 7月の市町村病虫害調査では、カメムシ類(特にアカスジカスミカメ)の発生量が多い地域があります。斑点米カメムシ類の被害を抑えるため、計画的な除草と薬剤防除を徹底しましょう。
- 現在の発生状況や気象予報から、今年はカメムシ類の加害が出穂後長期に渡る可能性が高いので、イネ科雑草が出穂していない条件では、8月上旬まで草刈りを継続しましょう。
- 早生では2回防除、コシヒカリでも1回防除(多発生が懸念される場合は2回)を確実に実施しましょう。

カメムシ類の防除(2回防除の場合)

回数	めやす	カメムシ成長段階
1回目	出穂期の7日後	成虫が本田侵入
2回目	1回目から7~10日後	卵がふ化し終わった頃



近年発生が多い
アカスジカスミカメ
体長約4~5mm

(2) いもち病

- 7月に入ってから葉いもちの発生が各地で確認されています。梅雨明け後は降雨が少なく一時停滞しているほ場が多い状況ですが、発生量はやや多いので、共同(一斉)防除を確実にを行い、穂いもちの予防を徹底しましょう。
- なお、上位葉に病斑が多数確認され、出穂後の天候が不良の場合など、穂いもちの多発生が懸念される場合は、穂揃期10日後の追加防除を検討しましょう。